



いつのまにか変わった!

ごみ・環境ビジョン21 理事 井上 真紀子

前編

のお題は「水」



「思い込んでいたことが、いつのまにか変わってた!」…いわゆる「目からウロコが落ちた」ことが、このところふたつありました。

ひとつは「水」のこと。きっかけは、私が早朝受入れのパートをしている保育園でのやりとりです。調理士が来ると、こどもたちが飲むように冷ました麦茶のポットが各保育室に置かれるのですが、まだ用意ができていない時間にこどもたちが「のどが渇いた!」という、大半の保育士は「麦茶ができるまでちょっと待ってて」と言います。私が「水道の水を飲ませればいいじゃないの」と言うと「水道水はあまり飲ませたくない」「親の中にも水道水に抵抗のある人がいる」と。

確かにそう言う私も、20～30年前の子育て時代に「水道水は塩素の残留量が多く、発ガン性物質トリハロメタンが発生する」と騒がれたことがあって、あわてて浄水器をつけたものでした。そのまま習慣的に、カートリッジを取り替えながら使い続け、飲んだり炊事に使う水は浄水器の水を使ってきました。

水道水が安全でおいしくなったのにはもちろんツケがあります。従来の「凝集・沈殿、ろ過」といった浄水処理に加えて、オゾン処理と生物活性炭吸着処理を取り入れた【高度浄水処理システム】の成果でした。オゾン処理でかび臭の原因となる物質やカルキ臭の原因となるアンモニアなどを取り除き、生物活性炭吸着処理でトリハロメタンの元となる物質などを減少させることができるようになったそうです。

つまり浄水場に大きな浄水器がついているようなものですね。現在、国の補助を受けて高度浄水処理システムを取り入れたか、あるいは建設中の浄水場は、東京、千葉、茨城、福島、長野、大阪、兵庫、京都、和歌山、香川、滋賀、福岡、鹿児島、沖縄など全国に拡大し、今後導入を検討している自治体も多いといえます。

この夏、ちょうど浄水器のカートリッジの取替え時期が来たのをきっかけに、私は浄水器を使うのをやめました。水道水をボトルに入れて冷蔵庫で冷やして飲むと、あらま、ほんとにおいしい!

ちなみに、せっかく安全でおいしくなった水道水も、集合住宅などの貯水槽の管理に問題があって水質が悪化することもあるので、水道局は貯水槽を経由せずに直接各階に給水する直結給水方式の普及・促進に取り組んでいます。

WHOによると、世界の人口のおよそ1/6、11億人以上の人は安全な水を飲めない環境にあります。いつでも安全でおいしい水が飲める国の私たちが、ペットボトルの水を飲んでごみを増やしているのは、ばちが当たるといえるものです。

あー、しまった! 「目からウロコが落ちた話がふたつ」と書いたのに、ひとつで紙面が尽きてしまいました f(^_^;) 続きは次号で。

そんな時、ごみ・環境ビジョン21で【水Do! (スイ・ドゥ!) キャンペーン】(事務局; FoE Japan)に賛同することになりました。

「おいしくて安全な水道水が十分に供給されている日本に住む私たちは、ペットボトルなどの使い捨て容器に入った飲料ではなく、水道水を選ぶことで、CO2、ごみ、そして社会的なコストを削減しよう」…水Do! キャンペーンはそう呼びかけています。(詳しくは「水Do!」で検索を)

そうです、いつのまにか「水道水はおいしくて安全」になっていたんですね! 私たちは長い間、蛇口から出る水を、まずくて臭くてあまり安全でないと思って暮らしてきたのではないのでしょうか。

東京都水道局に関していえば、2004年から「安全でおいしい水プロジェクト」を発足させ、水道水のPR活動を始めていたんですね。私はちっとも知らなかった…(え? みなさんは知ってた?)